

2026年1月9日(金)～18日(日)

名古屋市民ギャラリー矢田 第1展示室

開館時間 10:00～19:00(12日(月・祝)、18日(日)は17:00まで)

※休館日:13日(火) 入場無料

# 石の裏を覗く

名古屋市民文化基金事業 ファン・デ・ナゴヤ美術展2026 「石の裏を覗く」



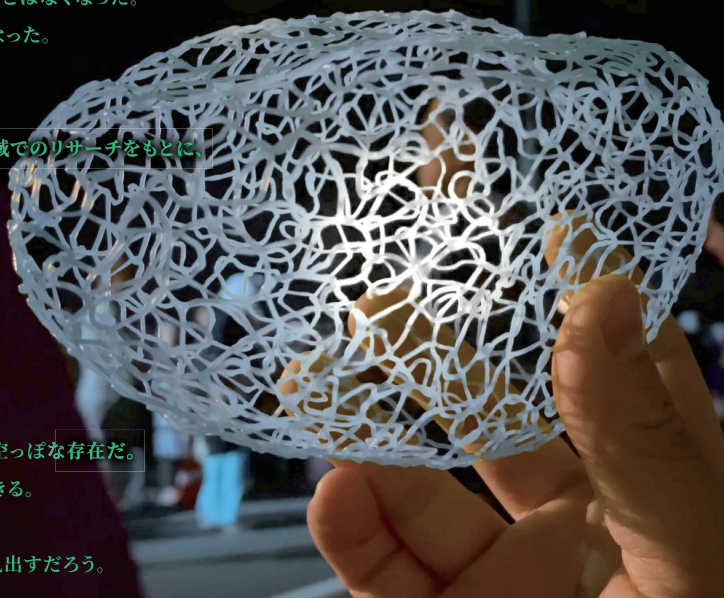
# 石の裏を覗く

個展「石の裏を覗く」は、  
河原をモチーフに、  
過去と現在、モノと精神、そして彼岸と此岸の境界を現出させる。

かつて、河原は現世と異界の境界だった。  
それは死者を自然に還す場所であり、  
河原石は墓や祭祀に使用され、古代の人々は河原を通じて生と死のサイクルを見出していた。  
時代は進み、衛生の観点から河原に死者が弔われることはなくなった。  
河原は特別な意味を失い、管理された風景の一部になった。  
そこに死体は横たわっていない。

本展覧会では古代の遺跡が多く残る秋田県北部の地域でのリサーチをもとに、  
河原石から複製したモノと映像を組み合わせることで、  
展示空間に新たな河原を創り出す。  
それは、古代の死生観を顧みる場であり、  
この世界と異界のあいだを捉える装置である。

丸みを帯びた石に、もはや裏側は存在しない。  
では裏はどこにあるのか。  
複製された河原石は質量のほとんどない輪郭だけの空っぽな存在だ。  
この輪郭の隙間から、私たちは石の裏を覗くことができる。  
無数の「石」で構成された河原から、  
過去と現在、モノと精神、彼岸と此岸の新たな循環を見出すだろう。



山岸耕輔 | Kosuke Yamagishi

1995年石川県生まれ。2020年金沢美術工芸大学大学院修士課程美術工芸研究科絵画専攻修了。2022年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。現在は秋田を拠点に活動中。水平に移動するパフォーマンスや、3Dペンで作成したオブジェを用いた映像などを制作。人と場所の関係を捉えなおし、新たな風景の描写を試みる。主な展示に「OVER ROAD」(金沢市民芸術村/PIT5 アート工房,2023)「風の中の風の音」(天徳院,2023)がある。

## イベント

「3企画合同ギャラリーツアー」

2026年1月10日(土) 16:30~17:30

アーティスト:山岸耕輔、高見知沙、村瀬ひより

ゲスト: 鶴尾佳奈(愛知県美術館学芸員)

集合場所: 市民ギャラリー矢田 第2展示室

参加費無料(申込不要)

アーティストサイト



X(旧Twitter)



instagram



## 同時開催の展覧会

第2~3展示室「手ぶらという仕草を眺める」

企画者・出品作家: 高見知沙

第4~7展示室「The correct life」

企画者・出品作家: 村瀬ひより

## 会場

名古屋市民ギャラリー矢田 第1展示室

〒461-0047 名古屋市中区大幸南1丁目1-10 カルポート東4F

TEL: 052-719-0430

## お問い合わせ

公益財団法人名古屋市文化振興事業団

TEL: 052-249-9385(平日 9:00~17:00)

## 交通アクセス

地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」下車 1番出口南へ徒歩5分

ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」下車 南へ徒歩3分

市バス「大幸」下車 徒歩5分(名駅15号系統、東巡回系統)



感動を育てる種をまこう  
名古屋市文化基金